



ミツバチ目線で緑の街を①



銀座で「ミツバチプロジェクト」 最初は「刺すだろう！」の声

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 理事長 高安和夫

銀座のビルの屋上でミツバチを飼いはじめたのは、2006年3月28日でした。はじめ「銀座でミツバチ!」の報道に、随分驚いた方や「なんてお騒がせな奴らだ。ミツバチは刺すだろう!」と思った方が沢山いたと思います。また、「事故が無いように気をつけろよ」とご心配の言葉もいただきました。

1年目は6月中旬の梅雨が始まる前の季節限定で養蜂を実施しました。それは師匠である養蜂家の藤原誠太氏より、「梅雨が始まる前は花蜜が豊富な時期、ミツバチも花蜜を集めるのに必死で、人の事など気にしないよ」の一言から。ともかく安全に、そして銀座の街の皆さんに安心してもらえるよう配慮しました。

そして6月中旬、無事に銀座のミツバチは引越して行きました。すると「来年もミツバチは来るの?楽しみにしているよ」と多くの街の方から声が掛かりました。そこで、一緒にミツバチ飼育を始めた田中淳夫氏(紙パルプ会館専務取締役)とミツバチも市民権を得たかなと、ひと安心したことを懐かしく思い出します。今年、銀座ミツバチプロジェクトは11年目の春を迎えることが出来ました。

さて、そうは言ってもミツバチ飼育は誰にでも出来るわけではありません。そこで「ミツバチは私たちが安全に飼います。皆さんはミツバチが遊びに来る花畑やハーブ園、野菜畑をつくりませんか。ミツバチが来て受粉すると美味しい実が出来ますよ」こうした呼びかけに応じてくれたのが銀座社交料飲協会の夜の蝶の皆さんでした。理事の白坂亜紀さんの着物姿で鉢をもつ光景はメディアからも注目を集めました。

三越で体験、 子供たちもファンに

そして三越銀座店が2010年リニューアルオープンの時、9階銀座テラスの一角にテラスファームを開設しました。「ファームは地域の皆さんに使ってほしい」三越さんの希望で、地元の京橋築地小学校の4年生が、毎年サツマイモと落花生の苗植えや種まき、収穫体験にやってきました。

また、テラスファームではミツバチとハーブの体験会を開催しています。昨年10月31日に開催した、銀座の屋上で『みづばちの里づくり』には、小さいお子さん連れも含め、沢山の方にご参加いただきました。

蜜や花粉を集めるミツバチを観察し、ハーブの収穫体験を楽しみました。小さな体で忙しく働き回るミツバチを見ると感動と勇気が湧いてきます。子供たちもすっかりミツバチファンです。野菜やハーブ、花に囲まれた畑の間を走り回る子供たち、みなさん銀座の里山で休日を楽しみました。

屋上や壁面、街路樹に季節の花が咲き、ミツバチが受粉することで実を付け、その実を鳥が食べに来る。鳥は実だけではなく虫も食べてくれるので、薬剤散布の必要がなくなります。いつか街全体が花に溢れミツバチや他の昆虫、鳥たちも飛び交う里山になることを夢見て活動を続けています。

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。